

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2025年1月8日

【事業年度】 自 2023年1月1日 至 2023年12月31日

【会社名】 クレディ・アグリコル・エス・エー
(Crédit Agricole S.A.)

【代表者の役職氏名】 最高経営責任者代理
ジェローム・グリヴェ
(Jérôme GRIVET, Deputy Chief Executive Officer)

【本店の所在の場所】 フランス、セデックス、モンルージュ、92127、
合衆国広場 12番地
(12, place des États-Unis 92127 Montrouge Cedex France)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 小 林 穰

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03-6775-1000

【事務連絡者氏名】 弁護士 安 藤 紘 人
弁護士 佐 野 美 由 香
弁護士 岡 田 行 希
弁護士 完 山 聖 奈

【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03-6775-1107
03-6775-1673
03-6775-1816
03-6775-1914

【縦覧に供する場所】 該当事項なし

1 【提出理由】

2024年5月28日に提出いたしました有価証券報告書（事業年度 自2023年1月1日 至2023年12月31日）の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

訂正箇所は下線を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第3 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

<訂正前>

1. クレディ・アグリコル・エス・エーのリスク要因

（中略）

1.1 クレディ・アグリコル・エス・エーおよびその事業に関するリスク要因

（中略）

1.1.1 信用リスクおよびカウンターパーティー・リスク

a) クレディ・アグリコル・エス・エーは取引相手先の信用リスクにさらされている

（中略）

クレディ・アグリコル・エス・エーは、担保、保証の取得、信用デリバティブ契約の締結およびネットィング契約の締結等のリスク軽減テクニックを使用して信用リスクに対するエクスポージャーの削減に努めてはいるが、これらのテクニックがカバーする取引相手先の債務不履行によって発生する損失を、これらのテクニックが相殺できるか否かは確実ではない。さらに、クレディ・アグリコル・エス・エーは、信用リスク・ヘッジを提供する者（デリバティブにおける取引相手先等）による債務不履行リスク、または担保の価値喪失リスクにさらされている。また、これらのテクニックがカバーするのは、クレディ・アグリコル・エス・エー全体の信用リスクのうちの一部のみである。したがって、クレディ・アグリコル・エス・エーは、取引相手先の債務不履行リスクに対して大きなエクスポージャーを有している。

（中略）

1.1.5 クレディ・アグリコル・エス・エーの戦略および取引に関するリスク

（中略）

e) クレディ・アグリコル・エス・エーは、法人営業および投資銀行子会社と共に、高い信用格付を維持しなければならず、これができなければその事業および収益性はマイナスの影響を受けるおそれがある

（中略）

依頼した格付機関3社のうち、ムーディーズ、S&Pグローバル・レーティングスおよびフィッチ・レーティングスによるクレディ・アグリコル・エス・エーの長期発行体格付は、それぞれAa3、A+およびA+であり、見通しは安定的である。

（中略）

2. リスク管理

（中略）

2.9 法的リスクの変化

（中略）

訴訟および例外的事由

（中略）

SSA債

クレディ・アグリコル・エス・エーおよびクレディ・アグリコル・CIBは、米ドル建てSSA債（国際機関債、サブソブリンおよび政府機関債）の流通市場取引に關与した複数の銀行の活動に關する調査について、複数の規制当局から情報提供の要請を受けた。クレディ・アグリコル・CIBは、これらの規制当局への協力を通じて、要請された情報を収集するための内部調査を進めた。2018年12月20日、欧州委員会は、米ドル建てSSA債の流通市場取引における欧州競争法違反の疑いに關する調査に含まれた、クレディ・アグリコル・エス・エーおよびクレディ・アグリコル・CIBを含む複数の銀行に対して、異議告知書を送付した。クレディ・アグリコル・エス・エーおよびクレディ・アグリコル・CIBは、かかる異議について認識し、2019年3月29日に回答を送付し、2019年7月10日および11日に口頭審理を受けた。

（後略）

<訂正後>

1. クレディ・アグリコル・エス・エーのリスク要因

（中略）

1.1 クレディ・アグリコル・エス・エーおよびその事業に關するリスク要因

（中略）

1.1.1 信用リスクおよびカウンターパーティー・リスク

a) クレディ・アグリコル・エス・エーは取引相手先の信用リスクにさらされている

（中略）

クレディ・アグリコル・エス・エーは、担保、保証の取得、信用デリバティブ契約の締結およびネットティング契約の締結等のリスク軽減テクニックを使用して信用リスクに対するエクスポージャーの削減に努めているが、これらのテクニックがカバーする取引相手先の債務不履行によって発生する損失を、これらのテクニックが相殺できるかは確実ではない。さらに、クレディ・アグリコル・エス・エーは、信用リスク・ヘッジを提供する者（デリバティブにおける取引相手先等）による債務不履行リスク、または担保の価値喪失リスクにさらされている。また、これらのテクニックがカバーするのは、クレディ・アグリコル・エス・エー全体の信用リスクのうち一部のみである。したがって、クレディ・アグリコル・エス・エーは、取引相手先の債務不履行リスクに対して大きなエクスポージャーを有している。

（中略）

1.1.5 クレディ・アグリコル・エス・エーの戦略および取引に關するリスク

（中略）

e) クレディ・アグリコル・エス・エーは、法人営業および投資銀行子会社と共に、高い信用格付を維持しなければならず、これができなければその事業および収益性はマイナスの影響を受けるおそれがある

（中略）

依頼した格付機関3社のうち、ムーディーズ、S&Pグローバル・レーティングおよびフィッチ・レーティングによるクレディ・アグリコル・エス・エーの長期発行体格付は、それぞれAa3、A+およびA+であり、見通しは安定的である。

（中略）

2. リスク管理

（中略）

2.9 法的リスクの変化

（中略）

訴訟および例外的事由

（中略）

SSA債

クレディ・アグリコル・エス・エーおよびクレディ・アグリコル・CIBは、米ドル建てSSA債（国際機関債、準ソブリンおよび政府機関債）の流通市場取引に關与した複数の銀行の活動に關する調査について、複

数の規制当局から情報提供の要請を受けた。クレディ・アグリコル・CIBは、これらの規制当局への協力を通じて、要請された情報を収集するための内部調査を進めた。2018年12月20日、欧州委員会は、米ドル建てSSA債の流通市場取引における欧州競争法違反の疑いに関する調査に含まれた、クレディ・アグリコル・エス・エーおよびクレディ・アグリコル・CIBを含む複数の銀行に対して、異議告知書を送付した。クレディ・アグリコル・エス・エーおよびクレディ・アグリコル・CIBは、かかる異議について認識し、2019年3月29日に回答を送付し、2019年7月10日および11日に口頭審理を受けた。

(後略)

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(3) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

<訂正前>

業務および財務情報

(中略)

クレディ・アグリコル・エス・エーの各部門および事業部門の業務および業績の分析

(中略)

<大口顧客>

(中略)

法人営業および投資銀行

(中略)

法人営業および投資銀行(CIB)の収益(参考値)⁽¹⁾は、2022年度と比較して7.1%増加し、6,140百万ユーロとなった。この増加は、キャピタル・マーケットおよび投資銀行業務による収益(参考値)が、主に仕組金利商品、プライマリー貸出および証券化に支えられたフィックス・インカム・クリアリング・コーポレーション(FICC)の収益により、2022年度と比較して大幅に増加し、12.7%増の2,968百万ユーロとなったことによるものである。投資銀行業務による収益は、ストラクチャード・エクイティが好調であったことを反映して、前年度と比較して増加した。ファイナンス業務による収益(参考値)は、すべての商品ラインで収益が増加し、またストラクチャード・ファイナンスによる収益が7.1%増と大幅に増加したことにより、2022年度と比較して2.3%増加し、3,173百万ユーロとなった。商業銀行業務による収益は、2022年度比横ばいとなり、キャッシュ・マネジメント事業および電気通信事業が好調であったことによる恩恵を受けた。

(後略)

<訂正後>

業務および財務情報

(中略)

クレディ・アグリコル・エス・エーの各部門および事業部門の業務および業績の分析

(中略)

<大口顧客>

(中略)

法人営業および投資銀行

(中略)

法人営業および投資銀行(CIB)の収益(参考値)⁽¹⁾は、2022年度と比較して7.1%増加し、6,140百万ユーロとなった。この増加は、キャピタル・マーケットおよび投資銀行業務による収益(参考値)が、主に仕組金利商品、プライマリー貸出および証券化に支えられた金融市場業務(FICC)の収益により、2022年度と比較して大幅に増加し、12.7%増の2,968百万ユーロとなったことによるものである。投資銀行業務による収益は、ストラクチャード・エクイティが好調であったことを反映して、前年度と比較して増加した。ファイナンス業務による収益(参考値)は、すべての商品ラインで収益が増加し、またストラクチャード・ファイナンスによる収益が7.1%増と大幅に増加したことにより、2022年度と比較して2.3%増加し、3,173百万

ユーロとなった。商業銀行業務による収益は、2022年度比横ばいとなり、キャッシュ・マネジメント事業および電気通信事業が好調であったことによる恩恵を受けた。

(後略)